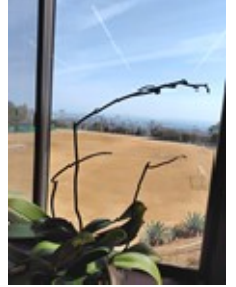


## 「化ける」

県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 胡蝶蘭は教えてくれる

「この子」のことは昨年度の通信 49 号で書きました。咲き誇った春から、ひとつひとつと蕾を落とし、夏には枝だけが残されていた胡蝶蘭。それでも精いっぱい面倒を見ていたお蔭か、春を前に再び新たな芽を伸ばし始め、先っちょに蕾を蓄え始めたのです。上手に育てると胡蝶蘭は鉢植えのままでも翌年にこうして蘇生し、再び新たな花を咲かせてくれます。その気配が見えた喜びで通信を書かせてもらったのが今年の3月。そして、この子はさらなる学びを私にくれます。



通常ならひとつの鉢から一本ずつ蘇生します。だからこそ3つの鉢からは右手の写真のように3つの新たな芽が蘇生していました。しかし、この子はそれにとどまらず、次々と新たな芽を生み出し、ひとりで勝手に胡蝶蘭の密林を生み出していくのです。これまで6年間にわたり胡蝶蘭の相手をしてきましたが、こんなふうに激しく咲いてくれた子は初めてですね。

さて、次々と届く今年度の県総体の吉報。最後を締めくくってくれたのは山岳部でした。高橋薫生くん、橋本優太くん、小谷溪介くん、玉置哲平くんが挑んだ男子チームは2年連続19回目の優勝。8月に開催される第70回全国高等学校登山大会への出場を決めました。全国インターハイへの出場は通算23度目。見事に伝統のバトンを繋いでくれました。

また、石井瑚春さん、折原凜音さん、川畑美清さん、西崎心優さんで挑んだ女子チームは惜しくも準優勝でありましたが、これまた全国高等学校登山大会への出場を決めました。なお、女子チームの全国インターハイ出場は初めてのこと。見事なアベック出場です。ここから新たな伝統が始まりますね。



一方、先週の校内はすっかり自治会長選挙モード。正門前での選挙活動もなかなか爽やかでした。ただ、それにもまして嬉しかったのは立会演説会当日のアゼンブリーでした。3名もの立候補者が鎬を削るという展開はもちろん、それ以上に定刻通りに全校生徒が集まり、しっかりと演説に耳を傾けている姿は美しかったですね。昨年度より進化していますから。そのことに触れた昨年度の通信を添えます。お時間があればおつきあいしてくれると嬉しいです。

さて、立会演説、誰もが伝統の継承に加え、ここからの進化を唱えてくれました。私は50年ほど昔を思い出します。当時、野球少年だった私は目を怪我してそのまま入院。手術となりましたが以来、左の眼球は自由に動かなくなりました。右の眼球と左の眼球の動きが揃わないとどうなるか。互いが勝手に脳に映像を送ってくるため真正面の映像以外、私には常にふたつの世界が見えるようになったのです。当然、飛んでくる打球もふたつになりましたから野球は諦めました。そして今も私の目に映る世界はふたつのままです。



投げやりになったこと、何度もあります。でも何処かに『障碍を言い訳にして、このままで終わりたいくない自分』がいたのですね。脱却するきっかけのひとつが教師という職業です。先週末は神戸高校も教員採用試験の会場でした。校舎内をきれいにしてくれた皆さん、ありがとうございます。当日は養護教諭の寺田先生にも緊急のために待機していただき、無事に試験は終わりました。

日々の授業や部活動。探究的な活動に自治会活動、そして数多くの学校行事。魅力的な同級生に加え、先輩たちや後輩たちとの繋がり。先生方からの言葉がけや、先生方が皆さんに向き合う姿勢。事務室の方々の丁寧な対応…。ここは進化するきっかけがいくつも転がっている場所です。何に学び、どう進化するかは自分次第。

さあ、校長室の「この子」みたいに、次に化けるのは誰ですか。



## 「むねのとを ひかりにひらけ」

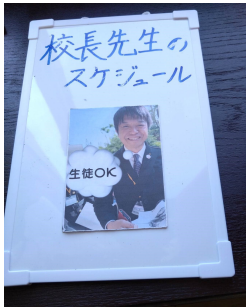
県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ 本格的な夏を前にして…

蒸し暑い日が続いています。校長室の網戸が破れていたのですが、校務員の坂口さんにお伝えすると、私が出張している間に網戸の交換に加え、窓をピカピカに磨き、加えて塗装のはがれていた棚のペンキ塗りまでしてくれていました。窓越しに景色を見下ろします。まるでガラスが嵌められていないかのように向こう側がきれいに見えます。

空の青とグラウンドの薄茶色、そして棚のこげ茶色が1枚の絵画のようにきれいに収まっています。ここまで鮮やかになるんですね。坂口さんの丁寧なお仕事に深く感謝するとともに、坂口さんの負担が増えないよう、もう少しゆっくと夏が近づいてくれたらと願った私です。

網戸は大切なのです。前任校の時からですが、夏の日、私はなるべくクーラーを使わないようにしているのです。そこには経費削減や地球温暖化対策という側面もありますが、本意は「校長室の扉を開いておきたい」との思いで、その実現に扇風機と網戸は欠かせないのです。『むねのとを ひかりにひらけ』ですからね。



とは言え、昨年の冬は差し込む廊下の空気があまりに冷たかったので、一時期、校長室の扉を開けました。すると、プレートを作成してきた生徒から、「自分たちが入ってもいい時には、これを校長室の扉に掛けてほしいな」とお願いされます。『生徒OK』のプレート。「扉が閉まっていると、いつ校長室に遊びにいついにか解らなくて困っているんで…」とのことでした。

確かにそれまでは扉から顔を覗かせて挨拶してくれる生徒がいましたし、その子たちは校長室に入ってきては色々な話をしてくれる生徒でした。そこでこの春に学校をかわる際、私はこのプレートと一緒に転勤することを決めました。今は大切な思い出の品として校長室に保管しています。使われている写真の私が笑いすぎているのが、もちろん気にはなるんですけどね。そう言えば本校でも過日、健康診断で移動している際にわざわざ顔をのぞかせて挨拶してくれる生徒がいました。嬉しかったですね。

心には心で応える人でありたいと思っています。過日のアゼンブリー。旧自治会長の退任挨拶と新自治会長の着任挨拶がメインで蒸し暑い校庭。「自分の出番はなくてもいいな」私はそう思っていました。果たして生徒の皆さんが整列できたのは集合完了予定から2分後。全校生徒 1000 人を超える本校です。しかも今年に入ってからではもっともよい整列状態。でも、私は敢えて一言だけ皆さんに伝えることにしました。

「自治会長が交代する今日は、本校にとって特別な日です。新旧の両自治会長には生徒の皆さんにぜひとも伝えたい思いがあると思います。だからこそこんな日は全員がぴたりと揃って、その瞬間を待ち受ける、そんなふうであつたら嬉しいですね。さあ、ふたりの思いを聴きましょうか」と。実はアゼンブリー開始の 10 分前には生徒がふたり位置についていたのです。美しい光景です。



そうそう、その3日前にはこんなことがありました。授業を終えた小林先生が開けっ放しの校長室に入ってこられます。「昨日の放送部のコンテストで加古川東高校が新谷校長の話で番組をつくり、表彰されていましたよ」とのこと。そう言えば3月に取材されましたっけね。放送部の生徒たちは私の話をネタに『使命の継承』との題でラジオドキュメントをつくり、NHK杯に出品。見事に優良賞をいただいたとのことです。

ちなみに偶然にもその日の夕刻、会議に呼ばれた私は3か月ぶりに加古川東高校を訪れました。放送部の顧問の先生は私を見るなり入賞した作品データを渡してくれます。「ぜひ聴いてあげてください」って。その先生の笑顔と、私の前任校のことを伝えてくれた小林先生の笑顔が重なり、胸の奥があたたかくなりました。

ほら、胸の戸を光にひらいていたら、いいことあるでしょ。世の中、そんなに捨てたもんじゃありません。